

第 2 回 横浜市の中学校昼食に関する懇談会議事概要	
日時	令和元年 10 月 31 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30
場所	関内駅前第一ビル 302 会議室 (教育委員会事務局会議室)
出席者	鈴木志保子委員、鈴木裕子委員、柴田委員、今平委員、秋好委員、小島委員、越井委員、室伏委員、村井委員、相坂委員、萬谷委員 (欠席者 山岡委員)
次第	1 あいさつ 2 第 1 回懇談会の議事概要について 3 横浜市の中学校昼食に関するアンケート調査について 4 ハマ弁の事業推進に向けたこれまでの取組状況について 5 ハマ弁と他都市のデリバリー型給食の比較について 6 その他
要旨	
<p><b>【 2 第 1 回懇談会の議事概要について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より議事概要について説明</li> <li>・特に意見なし</li> </ul> <p><b>【 3 横浜市の中学校昼食に関するアンケート調査について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 3 - 1、3 - 2 に基づき事務局から資料説明</li> </ul> <p>(主な発言要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と中学校で質問内容が重なっているのであれば、小中学校で利用方法が異なることを踏まえて比較すれば、良い分析ができるのではないかと。</li> <li>・基本的な考え方として、子どもたちは栄養学の知識などを持っていないので、大人がバランスの良いものを作って食べさせる必要がある。選択肢は、バランスの良い食事に対しての選択肢があったとしても、バランスの悪い食事の選択肢を置いてはいけないと思う。子どもたちの好き・嫌いも大切だが、おいしいから良いとか悪いとかいう問題ではない。昼食 1 回をバランスの悪いものにしたら、自分が今やりたい勉強も運動にも影響があることを伝え、いくら嫌いなものでもある程度は食べなければいけないと教えるのが食育。アンケートで利用頻度を聞いているが、デリバリー型給食にするのであれば本来は全員に毎日食べてもらいたい。</li> </ul> <p><b>【 4 ハマ弁の事業推進に向けたこれまでの取組状況について】</b></p> <p><b>【 5 ハマ弁と他都市のデリバリー型給食の比較について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 4 - 1、5 - 1 に基づき事務局から説明</li> </ul> <p>(主な発言要旨)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハマ弁については、様々な改善の取組がされており、保護者向けの様々なハードルはほぼ解決されているように感じる。そうなると思食率が伸びるかどうかは、子どもたちにハマ弁に対するモチベーションがあるかどうかではないかと。子どもの意見として、取りに行くのが面倒とあるが、これが大きいのではないかと。子どもに昼食を選ばせている現状もハマ弁を選ばない要因の一つだと思ふ。</li> <li>・注文をするのは、結局は親なので、ハマ弁アプリなどもダウンロードしても、注文が結構面倒に感じる。ハマ弁の注文は 1 つのメールアドレスに対して 1 人の生徒となっているので、兄弟がいると、メールアドレスがもう 1 つ必要になる。1 つのメールアドレスで複数の注文ができれば利用率はもう少し上がるのではないかと。</li> </ul>	

- ・当日注文ができるようになったことは、お知らせを見た保護者は分かっているが、お知らせを持って帰っていない子どもが多く、そもそも注文する気がないからお知らせを見ていないという人が多い。
- ・新入生保護者説明会で説明することは一定の効果はあると思うが、その時点ではハマ弁を利用するかどうか決めかねている家庭も多いので、入学してからも説明会があるともっと認知され、利用されるのではないかと。
- ・ハマ弁が導入された際、選択制だったことで関心が薄れてしまったのではないかと。
- ・子どものことを考えると、小学校の給食は毎日出て、栄養バランスが考慮されていて、一定額で食べさせてもらえるということはありがたかった。中学校でも一定額を徴収し、皆で一緒に食べるのも良いのではないかと。
- ・就学援助等対象者に無料で食べられることを知らない親がいるかもしれないので、学校の先生方のお力もお借りして、食べられる生徒が増えると良いと思う。
- ・家庭の状況が多様化している中で、主体となる給食やハマ弁のようなものがあり、選択できる制度は良いと思っている。
- ・説明として、中学校はハマ弁が基本で、給食当番のように時間になったら取りに行くという方法にすればもっと喫食率が上がるのではないかと。
- ・女子生徒を中心に学年が上がるとお弁当が小さくなる傾向がある。昼食時間が短いうえに、やるべきことが多い中学生は食べ切れる量を持ってきたり、食べやすい菓子パンで過ごしたりしてしまう。小学校ではよく噛んで食べなさいとあれほど食育をやっている、中学校になったら時間がなくて食べる量を制限するなど学校内の生活上食べる時間が確保できていない、これは全国的な傾向だが、中学校の昼食時間が短いのは食育上問題がある。
- ・学校それぞれに事情があるが、昼食時間を延ばさなくても、休憩時間も含めて食べても良いとしている学校もある。
- ・小学校で給食を提供する場合には、アレルギーへの対応など、安全な食事の提供に一番神経を使う。教職員はその対応について、毎年研修などを受ける。最近は、外国籍や外国につながる生徒の宗教食への対応も考える必要がある。中学校では生徒指導や進路指導もある中、小学校と同様の給食は難しいと感じる。
- ・ハマ弁は様々なニーズに十分応えていると思う。食育の観点から、ハマ弁は栄養バランスが取れ、安全安心であることのアピールを保護者にも生徒にも伝えることが必要。
- ・区役所や福祉の分野など別の切り口からのハマ弁のアピールもしてほしい。
- ・一生食事をしていく上で栄養バランスを自分で選べる食事、選択制は重要。ハマ弁は栄養バランスが取れていて、家庭弁当では、調べてみると、50%くらいしか栄養バランスが取れていないということがある。自分の嗜好もあるので、たまにはバリエーションをつけて子どもは食事を選ぶこともあるため、多様性に合わせて食事を選べるということは、子どもの将来の食育のためにもいいと思う。
- ・家庭科の授業では、持続可能な社会を目指したエンカル消費を考える授業を行っており、様々な視点から昼食の選択を考える授業を行っている。
- ・外国籍の保護者はクレジットカードを作れない方もいるので、LINE Pay 決済ができることを周知すれば喫食率も上がるのではないかと。
- ・外国ではお弁当を作る文化自体がない場合が多いので、外国籍や外国につながる生徒にハマ弁を食べてもらったらよいと思う。
- ・新入生保護者説明会で、ハマ弁と家庭弁当のことをどのように伝えるかが重要だと思う。

## 【6 その他】

- ・次回の懇談会は11月の最終週に行うことで了承。